

## 人と水との関わり

洗足学園中学校

二年 水谷 真菜

春休みに、祖父母の家がある山に行きました。木が生い茂り、川があつて猪や鹿が住んでいる、まさに自然が集まる山です。そんな山の中の小さな川で、私は砂防堰堤を見つけました。

砂防堰堤とは、石流など上流から流れ出る有害な土砂を受け止め、貯まった土砂を少しずつ流すことにより下流に流れる土砂の量を調節する施設です。学校の理科の授業で、砂防堰堤がどのように土石流を防ぐのかという実験動画を見たときの、土石流がどんなに恐ろしいものなのかという記憶が鮮明に残っています。実験動画に映っていた川は大きく急な斜面にあり、いかにも危ない川でした。しかし、私が見た祖父母の家の近くにある川は小さく、実験動画に出てきた川のように危ない感じがし

ませんでした。私は、なぜ小さな川にまで砂防堰堤を作るのか、とても不思議に思いました。

私は、日々授業やニュースを見るたびに、人間が自然をどんどん壊してしまっていて、大げさだとは思いますが、このままだと人間がいつか自然を破壊してしまうのではないかと思っていました。木は水がないと生きていけないし、森は木がないと成り立たない。野生の動物も森林や水がないと生きていけない。まさに生態系です。これらは水がなければ成り立ちません。自然の全てを司っているような水を私達が汚してしまったら、生態系の全てを汚してしまうのではないかと思いました。

ところが、自然の全てを汚してしまうといつて川や水に手をつけずに森をそのままにしてみましたら、異常気象で台風や豪雨などによってすぐに川が増水して山や森では土石流がおき、山の麓に住んでいる人々が被害にあつてしまいます。そこで被害を出さずに自然を守る方法として、砂防堰堤を作ったのだと思いました。

そこまで考えて、私は本題の、なぜ祖父母が住んでいる山の小さな川に砂防堰堤が作られていたのかということへの答えが見えてきた気がしました。

山の小さな川を見たときに、祖父にその小さな川について聞いてみました。祖父によると、その川はもともと本当に小さな川で、そこに山の住民のお風呂の水などの生活排水が加わったことによって以前よりも川の水が増えたとのことです。人々が山を開拓したことによって川の水が増水し、山の麓の住民に被害が出る。それを砂防堰堤を作ることによって生態系を崩さずに住民への被害を出さないようにする。とても大切なことだと思います。

当たり前のことだとは思いますが、自分達がやったことを他の人へ迷惑をかけないように自分達でカバーすることの大切さを今回学びました。自然を崩さずに人間が生きていくことは不可能だと私は思います。しかし、自然を壊してしまつては私達は生きていきません。いい塩梅で自然と人間が共存していくためにはどうしたらいいのかをもっと真剣に、考えていかなければならないと強く感じました。